地理関連学連合　運営委員会 2021 年第三回会議

日時　2021 年 9 月 13 日（月曜日）14:00-16:40
形態　オンライン会議

出席者：春山成子（議長、東京地学協会、三重大学名誉教授）、山本佳世子（副議長、日本地理学会、電気通信大学）、磯田弦（東北地理学会、東北大学）、井田仁康（日本地理教育学会、筑波大学）、大佛俊泰（地理情報システム学会、東京工業大学）、島田沢彦（日本沙漠学会、東京農業大学）、関根良平（東北地理学会、東北大学）、中山大地（日本地形学連合、東京都立大学）、村山良之（東北地理学会、山形大学）、目代邦康（日本地形学連合、東北学院大学）、由井義通（地理科学学会、広島大学）、渡邊眞紀子（土壌肥料学会、東京都立大学）、事務局：細井久恵（日本地理学会事務局）

１．前回議事録確認
　山本副議長から説明があり了承された。

２．地理関連学連合からの提言の可能性について
　春山議長から地理関連学連合の設立の経緯が報告され、連合独自で災害防災、地理教育などを対象とする提言作成を検討いただきたいと説明があり、委員からは分科会と連合で相談してはどうか、一方では提言作成は労力を要するという慎重論があった。

３．教員研修について
　由井委員から、地理科学会が開催した「地理総合の解説」、「地理探究の解説講座」、「シンポジウム：遠隔化と必修化と見据えた地理教育の未来」の説明があり、デジタル素材を活用した教材開発者などからの話題提供、地理総合にむけた教員研修メニューが提案されていた。GIS 学会から、GIS 地図を担当し教員研修での教材等情報を Web 公開するなどの教材準備について説明があり、新らたな発信の形態を検討するとの報告があった。高校教員へは「GIS で作成した地図を読み活用できるか」も目標であり、「読図力の育成」を養う教材関係資料が Web ページに纏まっていると使いやすいという意見があり、GIS 学会は「散在する情報を整理し Web ページでの公開予定」があること、初心者が迷わずに誘導可能な仕組みを検討していることが紹介された。

４．オンライン会議の手法についてのとりまとめ
　島田委員から、学会開催には Zoom、Webex 利用が多いこと、日本データーベース学会の会議運営形態の取り纏めが報告されていること、GIS 学会では Zoom、YouTube の活用とイベント後に Newsletter で事後報告を行っている等の説明があった。ポスター発表につい

ては学協会が Google、Dropbox、独自サイト、LINC Biz や Confit が利用された事例があり、近年では Web サイト関係の企業、出版会社、IT 会社が学会活動のサポートを開始していることに合わせ関係サイトが紹介された。砂漠学会ではオンライン学術大会開催では Zoom（meeting と Webinar）を利用、東北地理学会は Google Meet 利用から Zoom 利用に変更しブレイクアウトルームを使用したところ議論・若手研究者交流が活発になったとの報告があった。教材作り時間を取りにくい教員にとって教材 Web サイトの要望もあり教材関係サイトが教科書会社にリンクされると利用が容易になるとの指摘があった。地誌関係でインドセンサスデータが地図化された教材化可能なサイト https://hindas.hiroshima-u.ac.jp/database.html が紹介された

５．防災地理についての展望

東北地理学会は教員研修が重要であるとし防災教育・地理総合支援へのハザードマップ活用を取り入れた研修/ワークショップで地理院地図の利用法ならびに GIS の概念や考え方を指導しているがネット検索で教員自らが教材情報を収集するのが困難であったこと、ワークショップ形式を持いた研修はネット検索の一助となったと報告した。高社研地理部会が公務用務となると、防災関係資料を基本教材とした GIS 研修の教員参加環境が整備されること、歴史教員参加への検討に対しての意見があった。東北地理学会の活動内容紹介 Web ページが準備される中、地理関係学連合ネットワークを用いた情報交換の場の構築の可能性が検討された。山形県教員研修関係イベント案内を各学協会の Web ページにリンク可能かという意見があり、教材素材を各学協会が収集整理し Web ページ公開されると教材準備が容易となるという意見があった。教材素材集の準備が進んでいることが紹介された。一方、インターネット上の情報には注意すべきこと、印刷物使用への課題、著作権などについて、教材作成に関わるアイディア情報交換の場があるといいという意見があった。この件について、J-Stage Data 利用、WS の教材のダウンロード制限、オンラインでの配信環境への注意などについての意見があった。

地理情報システム学会学術大会で「『地理総合』に向けた GIS 教育オンラインプラットフォーム」（10/30 開催）は無料で参加可能との紹介があった https://www.gisa-japan.org/conferences/index.html。古今書院「地理空間情報を活かす授業のための GIS 教材」改訂版は 10 月刊行予定 https://www.gov-book.or.jp/book/detail.php?product_id=325968、防災関係のオンライン講座（ハザードマップ読図法）の公開状況、地理院地図、重ねるハザードマップが紹介されているサイトが紹介された。http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/online

教員研修では使用されている GIS ソフトについての質問があり、東北地理学会は「生徒の GIS 使用を想定しない」との見解を示した。初心者が QGIS を利用するのは困難との意見があった。教員研修で「地理院の３D 地図を見る」と教員は感動するが、GIS 関係の資料を検索するために学会 HP にアクセスするのは困難だろうから教科書会社からのサポート

を期待するとの意見、今後、教科書会社との連携の必要性が指摘された。地理総合に限らず小中学校で GIS を学ぶと高校進学時までに基礎力が養われるだろうという意見があった。高校では情報科目があるが小中学校では情報を専門とする教員の巡回の可能性が低いがデジタル教科書の導入が情報化への一歩となる可能性があるとの意見があった。GIS アレルギーを回避するためにスマホ、ゲームをその一部を延長上に位置付けてはどうかという意見があった。地図作成にアレルギーがなくとも、コンピュータが介在することが敬遠の原因となりうるとの指摘があり、遊び感覚を取り入れるとその解消になるのではという意見もあった。アクセスすると必要な情報が得られる教員向けポータルサイトがあると良いという意見があった。

６．その他（今後の予定について）

土壌肥料学会からの以下の届出を承諾することとした。

①地理関連学会連合への加盟形態を変更したい（運営加入学会から賛同学会への変更）。地理関連学会連合への加盟は継続する。

②土壌肥料学会の代表委員を川東正幸氏（会計担当理事、東京都立大学大学）へ変更したい。

・渡邉委員から、これまでの経緯をもとに理事会（8 月 7 日）にて総合的に判断した旨について説明がなされた。

2021 年秋の日本地理学会（オンライン）では発表数が春の半分になり、オンライン化への対応が必要、学会活動の根幹が揺らぐのではないのかという大きな危機感を感じているとの報告があった。

次回は半年後に開催するとして閉会した。

以上